

令和 6 年 5 月 24 日現在

機関番号：32682

研究種目：学術変革領域研究(B)

研究期間：2020～2022

課題番号：20H05721

研究課題名（和文）イエズス会の近代性に関する批判的考察のための総合的歴史学研究

研究課題名（英文）Critical Reflections on the Modernity of the Jesuits

研究代表者

武田 和久（Takeda, Kazuhisa）

明治大学・政治経済学部・専任准教授

研究者番号：30631626

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 7,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の母体であるイエズス会班が一翼を担う領域全体の最終成果としては、ドイツのLIT Verlag社から刊行した英語論集Pastoral Care and Monasticism in Latin Christianity and Japanese Buddhism (ca. 800-1650)と、八坂書房から刊行した『修道制と中世書物 - メディアの比較宗教史に向けて』である。いずれの論集も、ユーラシア大陸の東西で展開されたキリスト教と仏教を修道制という観点から横断的に比較し、類似点を探るといったコンセプトを持つ。これにより、西洋史や日本史という垣根を超えて交流するという一歩を踏み出した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では第一にイエズス会の宣教方針とその実践が各地の文化や慣習と呼応しながら常に変容、解体、再編するものであると認識した上で、こうした動きを共時的観点から分析した。第二に、イエズス会の設立理念や組織原理の内実を通時的な観点から検討した。具体的には、イエズス会の創始者イグナチオ・デ・ロヨラの独自性よりも多面性を浮かび上げさせ、同会の歴史的意義を中世に存在した諸修道会が歩んできた歴史、またそうした修道会が経験してきた葛藤と照らし合わせた。

研究成果の概要（英文）：The final outcome of this research unit denominated “Society of Jesus,” which forms part of a superior unit denominated “Religious Movement Research Group,” is the publication of two books. The first is the edited book whose title is Pastoral Care and Monasticism in Latin Christianity and Japanese Buddhism (ca. 800-1650), published by LIT Verlag, Germany, and Monasticism and Books in the Medieval Age: Towards the Comparative Religious History of Mediums (text in Japanese), also an edited book published by Yasaka Shobo. Both books are the first step towards the comparative research of monasticism of Latin Christianity and Japanese Buddhism, crossing the boundaries of academic disciplines, such as western history and Japanese history.

研究分野：歴史学

キーワード：イエズス会 近代性 カトリック・グローバル化 宣教 メディア

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

イエズス会は、カトリックとプロテスタントの対立をきっかけとして宗教的な混迷を深める1534年のヨーロッパで結成され、1540年にローマ教皇により正式認可された修道会である。今日、イエズス会研究を後押しする組織的な枠組みが整備され、世界規模の学際的な研究が進行中である。同会の歴史や霊性、教育分野における貢献や遺産の解明を目的として、2014年にイエズス会研究高等研究所 (Institute for Advanced Jesuit Studies) が米国のボストンカレッジに設立された。またイエズス会は、オランダの国際的な学術出版社ブリル (Brill) と提携し、シリーズ「イエズス会研究」としてモノグラフや学術雑誌を刊行し続けている。

ブリルがホームページで表明するイエズス会研究の意義は、「イエズス会の歴史をとおして見る近代性」という言葉に集約されている。プロテスタント勢力の拡大に脅かされたカトリックの権威や威信、正当性や影響力といったものを再び取り戻すために、イエズス会は精力的な活動を展開し、その規模は地球全体に及んだ。今日の歴史学ではグローバル・ヒストリーに対する関心が高まっているが、イエズス会の歴史そのものがグローバルに展開され、世界各地におけるカトリック宣教を通して生じた政治、経済、社会、文化、神学、哲学に関する多様な議論が地球規模で展開されたことを根拠に、イエズス会研究のグローバル性が強調されている。さらにイエズス会研究は、ルネサンス、宗教改革、対抗宗教改革、科学革命、啓蒙思想、植民地主義、帝国主義、奴隷制、近代批判など、歴史研究の古典的な議論をより深める際にも役立てられるという。

実際に世界各国の研究者がイエズス会研究を推進していることから判断して、このブリルの説明に疑う余地はない。しかしはたして、上述の議論の発展は、研究の焦点をイエズス会のみにあわせることで達成されるのか。

イエズス会が近代初期に地球規模で推進した「世界のカトリック化」という動きは、言い換えれば「カトリック文明」なるものを地球全体に普遍的に拡散・定着させるという壮大な実験だったわけだが、こうした試みは、彼らの革新的な思想に基づく実践というよりも、彼らが遭遇した世界各地の文化や慣習と呼応するかたちで変容、解体、再編された帰結だったのではないかと(第一の問題提起)。またこのような大規模な実験は、イエズス会が、それまでの諸修道会が長期にわたり積み重ねてきた遺産の再現や応用だったのではないかと(第二の問題提起)。こうした問題の解明にあたり、他の観想修道会班や托鉢修道会班、そしてイエズス会宣教が始まる前の日本の信仰環境を研究する中世日本寺社班との共同・比較研究は有益であった。

こうした比較研究を推進するメリットは、イエズス会に特化した研究視角を絶対視せず、むしろこの修道会を時代や地域を超えた歴史的なコンテクストに位置づけて相対化できる点にある。イエズス会の歴史的な意義を中近世のヨーロッパとアジアで起きた宗教運動という大局的な脈絡の中で解明することが本研究の大きな特徴であった。

2. 研究の目的

世界各地に派遣されたイエズス会士たちは、ヨーロッパとは異なる風土、慣習、言語を持つ多様な人々と遭遇した。そこで彼らはカトリック化のために多くの手段を講じ、種々の著作や美術・工芸品を生み出していった。具体的には、布教対象の人々が操っていた言語に関する文法・辞書の編纂や聖書の翻訳、布教対象地の社会的エリートや知識人との哲学・宗教論争に打ち勝つための様々な論考や教本、視覚や聴覚を通して布教を推進するために作られた数々の作品や音楽などである。これらはイエズス会士の世界認識が反映されたメディアと捉えられ、美術史、神学、典礼研究、科学史、国際法、軍事史などの観点から共同研究を進めるうえで、史資料として極めて有用である。そこで本研究の目的を、共時的かつ通時的な分析視角から、(1)イエズス会が世界のカトリック化のために創出した各種メディアがいかなるもので、(2)それらが布教対象となった人々の価値観や世界認識にいかなる影響を与え、また(3)いかに社会の仕組みを方向づけたのかという問題を考察し、イエズス会の宣教活動の文明史的な意義を解明することに定めた。

3. 研究の方法

本研究の学術的独自性と創造性は「共時的かつ通時的な」分析視角にある。第一に、宣教方針とその実践が各地域の文化や慣習と呼応しながら常に変容、解体、再編するものであると認識した上で、これらを共時的な観点から分析した。考察にあたり注目すべきは、イエズス会が日本宣教の文脈で定めた「適応主義」である。16世紀の日本に最初に到来したフランシスコ・ザビエルが日本人を「理性的」とみなして以来、日本における布教活動は同地の文化や慣習を尊重しながら進められ、この方針は中国宣教にも導入された。その一方で、スペインやポルトガルの植民地となった今日の南米では、強圧的な改宗手段が状況に応じて正当化された。この方針は「魂の征服」という17世紀の南米布教に従事したイエズス会士が記した一語にも表れている。本研究ではこうした地域に根差した二分法的な理解から脱却し、16世紀以降の世界では諸地域の相互交流が地球規模に展開され始めたという前提を重視した。

第二に、イエズス会の設立理念や組織原理の内実を通時的な観点から検討した。イエズス会の基礎はイグナチオ・デ・ロヨラという初代総長の独創的アイデアの体現という見方があるが、彼の特殊性を強調するよりも、彼がおかれた歴史的な文脈を重視した方が、ロヨラの多面性が浮かび

上がり、より豊かな議論が展開できる。イエズス会の本質とその歴史的な意義は、それ以前の中世に存在した諸修道会が歩んできた歴史、またそれらが経験してきた葛藤と照らし合わせることで見えてくると考えた。

以上に加え、本研究は多種多様なテキストや図像を分析することから、メンバーには歴史、思想史、美術史、科学史、文学の専門家が参画した。専門分化が進むイエズス会研究において、こうした学問分野を統合することで本研究課題に取り組んだ。

4. 研究成果

2020 年度

本年度は研究代表者ならびに研究分担者が一堂に集う会合を 2020 年 12 月 20 日にオンラインで開催した。冒頭で代表の武田より、イエズス会班に属する研究者が今後研究を進めて行く際の留意点について説明があり（発表題目「イエズス会班キックオフミーティング」）、続いて研究分担者（浅野、折井、平岡、シュウエマー）がそれぞれ、本研究をつうじて取り組んでいく課題の概要について簡潔に報告した。

2021 年度

本年度の主たる活動としては、2021 年 12 月 18-19 日に他の 3 つの班と合同で開催したシンポジウム「東西中世における修道院・寺社の書物文化—製作・教育・世界観の変容」である。中近世の宗教運動を通じて生み出された各種メディアの中でも今回は書物文化に注目し、その制作現場、教育への活用、アイデンティティや世界観の変容に果たした役割にスポットがあてられ、ヨーロッパ史と日本史との比較がなされた。イエズス会班からは研究分担者のパトリック・シュウエマーが研究発表「キリシタン資料の裏を読む」を行い、雪窓宗雀文書に見られる聖人の俗伝や騎士物語、薬物貿易などの記述を「近世化」という概念のもとで再解釈した。

また 2021 年度は「中近世宗教史研究の最前線」という講演会シリーズを開催し、イエズス会班からは研究協力者の小俣ラポー日登美が 2021 年 12 月 5 日に研究発表「異端・偶像崇拜・暴君の共演—イエズス会と日本の宗教—」を行い、ヨーロッパのイエズス会劇に鑑として登場する日本の信仰の描かれ方について報告した。

さらに 2021 年 9 月 5 日には班の枠を超えた合同研究会「科学、医療、宗教の相互連関—中近世のキリスト教と仏教を中心に—」を開催し、イエズス会班からは研究分担者の平岡隆二が研究発表「イエズス会科学と近世仏教—初中期仏僧の西洋地球説への反応を中心に—」を行い、同時期の日本の仏僧がイエズス会由来の大地球体説（地球説）に示した反応を整理した。そしてこの発表に対して、研究協力者の岡田正彦からコメントがなされた。

その他、イエズス会班に属する武田和久（代表）、浅野ひとみと折井善果（それぞれ研究分担者）、アンドレス・メナチェ、石川博樹、岡田正彦（それぞれ研究協力者）が、年度を通じて個別報告を行った。

2022 年度

本年度の主たる活動としては、2023 年 1 月 7-8 日の二日間にわたり、関係者一同で開催したワークショップ「ラテン・キリスト教と日本仏教における「もつれた修道制史」を目指して」である。本ワークショップの中核的テーマは「もつれ」(entanglement) である。主として独仏近現代史の専門家から 20 世紀末に提起されたこの概念は、今日の歴史学界、とりわけ西洋史の分野ではトレンドになりつつある研究視角だが、修道制史研究にこの「もつれ」概念が適用されたことはない。様々な意味で実験的かつ挑戦的な試みであるものの、この「もつれ」概念を基軸に西洋史と日本史、ラテン・キリスト教と日本仏教を並置させた時にいかなる議論が展開されるのか。ワークショップは手探りしながら進められた。

ワークショップではまず、関係者一同が「もつれ」に関わる情報を共有すべく、発案者の武田より「もつれとは何か？」というタイトルで発表があり、その後は総括班の代表（苅米、大貫、赤江、武田）それぞれから研究発表が行われた。その後、観想修道会、托鉢修道会、イエズス会、中世日本寺社の班ごとでグループを設け、4 つの発表に関して Google スライドを用いながらディスカッションを行った。その際に議論すべきテーマとなったのが（1）発展段階論的な見方を超えて「もつれた修道制史」をどのように考えることができるか、（2）4 つの発表を聴き、その内容を自身の研究にひきつけて、どのように考えることができるか、（3）西洋史と日本史を比較する上での論点として、どのようなことが考えられるか、の 3 点である。

一日目の議論はここで終了し、続いて二日目、今度は前日の議論の内容を踏まえつつ、班を交えてのディスカッションを行った。具体的には 6-7 名で構成される班を A、B、C、D と 4 つ設けて、班の垣根を越えて活発な議論が展開された。その後、神崎忠昭、上島享、小澤実の 3 人の評価委員より、二日間にわたり繰り広げられたワークショップ全体が総括された。具体的には、「相互作用」や「相互影響」と呼ばずにあえて「もつれ」という用語を使うことの有効性や妥当性、「もつれ」、「もじれ」、「ねじれ」など、似たような用語それぞれの使い分けをどうするのか

という問題、さらには「もつれ」という概念を上位カテゴリーとして、それに関連する下位カテゴリーを複数設けて研究を深化させていくことの意義が指摘された。

このワークショップとは別に、イエズス会班単独で開催した研究会（すべて Zoom オンライン）としては、2022年10月21日開催の Fiona Karcz, “The Japanese Jesuit Mission Press (1590-1614): Actors and Networks”（来日中の Karcz 氏から快諾を得ての開催）2022年11月19日開催の武田和久「イエズス会の組織原理に関する試論—「もつれ」の視点から—」、2022年12月22日開催の平岡隆二「イエズス会日本布教と宇宙論 - 新出写本『スヘラの抜書』を中心に - 」ならびに折井善果「近世初期日本における倫理神学者マルティン・デ・アスピルクエタ」、2023年1月27日開催の浅野ひとみ「キリシタン信仰具研究—苦行鞭を中心に—」ならびにパトリック・シュウエマー「排耶物語『喜利志袒仮名書』に見られるイスラム征服、十字軍」などがあつた。

2023 年度

本研究の最終年度にあたる今年度は、これまでと同様にイエズス会班メンバーを中核とする研究会を数回実施し、シュウエマー、浅野、折井に進捗状況を報告してもらった。それぞれの発表は次の通りである（すべて Zoom オンライン）。パトリック・シュウエマー「キリシタン聖人伝「サンタマリナの御作業」におけるローカリゼーションと口頭伝承—ポルトガル語原典に照らして—」、浅野ひとみ「さまよえるユダヤ人」伝承—中近世西欧キリスト教会の経済を支えたメディア—」、折井善果「近世初期日本における告解（ゆるしの秘跡）とキリシタン版『さるばとるむんぢ』」。

あわせて、他の研究班と合同で国際会議においてセッション報告や国際カンファレンスを開催した。具体的には、前年度のワークショップ「ラテン・キリスト教と日本仏教における「もつれた修道制史」を目指して」を踏まえて、2023年7月にイギリス、リーズで開催された国際中世学会で‘Entangled’ Monasticism in Medieval and Early Modern Christianity というセッションを出し、また同年11月に東京都立大学で開催された Transcending the Tangibility and Intangibility においては班代表の武田が報告した。いずれの報告でも、イエズス会の教育メソッドや会憲には会独自の指針や方針というよりも、古代・中世から脈々と続く修道制の歴史の中で展開されてきた議論や諸規範が色濃く反映されていることを指摘した。なお研究協力者の小俣も、デジタル・ヒューマニティズに関わる報告を都立大国際カンファレンスで行った。

イエズス会班が属する領域全体の最終成果としては、英語論集 *Pastoral Care and Monasticism in Latin Christianity and Japanese Buddhism (ca. 800-1650)* をドイツの LIT Verlag 社から、また日本語論集『修道制と中世書物—メディアの比較宗教史に向けて—』を八坂書房から刊行できた。いずれの論集も、ユーラシア大陸の東西で展開されたキリスト教と仏教を「修道制」という観点から横断的に比較し、共通・類似点を探るといったコンセプトの下で編纂されている。これにより、西洋史や日本史という垣根を超えて対話と交流を進めていこうとする新たな一歩を踏み出すことができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計24件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Kazuhisa Takeda	4. 巻 -
2. 論文標題 Jesuit Militant Pastoral Care both in the Old and New World: A Study of the Spiritual Treatment on the Battlefield from Antiquity to Early Modern Period	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Toshio Ohnuki, Gert Melville, Yuichi Akae, and Kazuhisa Takeda (eds.), Pastoral Care and Monasticism in Latin Christianity and Japanese Buddhism (ca. 800-1650), Munster: LIT Verlag	6. 最初と最後の頁 168-201
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Masahiko Okada	4. 巻 32 (2)
2. 論文標題 The Founder of Toshiba, Tanaka Hisashige and Buddhist Astronomy: The Modernization of Japan and the Traditional Conception of the Universe	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Historia Scientiarum, 32 (2), 2023, pp. 139-156.	6. 最初と最後の頁 139-156
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田正彦	4. 巻 31
2. 論文標題 井上円了と社会改良の夢：『哲学飛将碁』をめぐる	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 井上円了研究センター年報	6. 最初と最後の頁 111-132
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hitomi Omata Rappo	4. 巻 10
2. 論文標題 From the Cross to the Pyre: The Representation of the Martyrs of Japan in Jesuit Prints	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Jesuit Studies	6. 最初と最後の頁 456-486
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小俣ラポー日登美	4. 巻 121
2. 論文標題 山伏に擬せられたイエズス会士：とある啓蒙思想家から見た日本	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 人文学報	6. 最初と最後の頁 79-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小俣ラポー日登美	4. 巻 10
2. 論文標題 奇跡を実験する	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 72-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小俣ラポー日登美	4. 巻 -
2. 論文標題 長崎二十六聖人崇敬の近世から近代への連続性：列聖化（1862年）直後の図像から	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 KADOKAWA	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 折井善果、岸本恵実、白井純	4. 巻 1
2. 論文標題 「キリシタン版『さるばとるむんぢ』ユトレヒト大学本の発見：思想史およびキリシタン語学からの検討	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 大阪大学大学院人文学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 折井善果	4. 巻 -
2. 論文標題 日本のキリスト教迫害下における「偽装」理論の神学的源泉	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 大橋幸泰編『近世日本のキリシタンと異文化交流』勉誠出版	6. 最初と最後の頁 55-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 アンドレス・メナチェ	4. 巻 43
2. 論文標題 『イエズス会日本コレジオの』に見られる天使と悪魔像について	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 基督教学研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平岡隆二	4. 巻 30
2. 論文標題 開陽丸引き揚げ文書と梅文鼎『暦算全書』	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 洋学	6. 最初と最後の頁 159-165
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平岡隆二	4. 巻 -
2. 論文標題 キリシタンと時計伝来	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 大橋幸泰編『近世日本のキリシタンと異文化交流』勉誠出版	6. 最初と最後の頁 11-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅野ひとみ	4. 巻 43
2. 論文標題 キリシタン遺物に見るイスパニア世界	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 美術フォーラム21	6. 最初と最後の頁 46-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石川博樹	4. 巻 30
2. 論文標題 16~18世紀のエチオピア北部におけるテフの消費拡大とインジェラの成立	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 農耕の技術と文化	6. 最初と最後の頁 1-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/nobunken_30_001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石川博樹	4. 巻 17
2. 論文標題 ローマ・カトリック的地獄・煉獄の受容をめぐる2つのイエズス会布教の比較 武田和久氏へのコメントー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 メトロポリタン史学	6. 最初と最後の頁 127-130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小保ラポー日登美	4. 巻 65
2. 論文標題 絵はことばを裏切る ニコラ・トリゴー『日本殉教史』(1623/1624)の挿絵とテキスト	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 京都市立芸術大学美術学部紀陽	6. 最初と最後の頁 49-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小俣ラポー日登美	4. 巻 17
2. 論文標題 17-18世紀日欧間の聖遺物の旅	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 メトロポリタン史学	6. 最初と最後の頁 5-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小俣ラポー日登美	4. 巻 11
2. 論文標題 『偶像崇拜』の地・日本 近世フランスの思想家レイ・リショームの言説から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 佛教大学歴史学部論集	6. 最初と最後の頁 45-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 折井善果	4. 巻 157
2. 論文標題 フランス国会図書館蔵『サントスの御作業』(1591年)について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 キリシタン文化研究会会報	6. 最初と最後の頁 15-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 折井善果	4. 巻 -
2. 論文標題 近世初期ヨーロッパのインテレクチュアル・ヒストリーからみた平山常陳事件 L・フロレス、P・デ・スニガの司祭身分隠匿問題をめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大橋幸泰編『2017～2020年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(一般)17H02392「近世日本のキリシタンと異文化交流」中間成果報告集』	6. 最初と最後の頁 91-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田和久	4. 巻 17
2. 論文標題 キリスト教的地獄観の流用（アプロプリエーション）とアメリカ先住民 - 17-18世紀スペイン領南米ラブラタ地域のイエズス会布教区を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 メトロポリタン史学	6. 最初と最後の頁 87-103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Wilde Guillermo, Takeda Kazuhisa	4. 巻 101
2. 論文標題 Tecnologias de la memoria: Mapas y padrones en la configuracion del territorio guarani de las misiones	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Hispanic American Historical Review	6. 最初と最後の頁 597 ~ 627
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1215/00182168-9366584	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 アンドレス・メナチェ	4. 巻 -
2. 論文標題 17世紀の排耶書におけるキリシタン排除と「内部性」の問題 雪窓宗崔『対治邪執論』を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 京都大学大学院文学研究科修士論文	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平岡隆二	4. 巻 -
2. 論文標題 キリシタンと和時計関連史料	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大橋幸泰編『2017～2020年度科学研究費補助金（基盤研究（B）（一般）17H02392「近世日本のキリシタンと異文化交流」中間成果報告集』	6. 最初と最後の頁 62-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計50件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 16件）

1. 発表者名 武田和久
2. 発表標題 A Reconsideration of Jesuit Modernity from the Entangled Perspective
3. 学会等名 'Entangled' Monasticism in Medieval and Early Modern Christianity: A Comparison with Medieval Japanese Buddhism, International Medieval Congress 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 武田和久
2. 発表標題 A Reconsideration of Jesuit Modernity from the Entangled Perspective
3. 学会等名 イエズス会班第1回研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 武田和久
2. 発表標題 The Constitutions of the Society of Jesus: A Collective Entity of the Multifaceted Monastic Identity
3. 学会等名 Transcending the Tangibility and Intangibility: Religion and Media in Pre-Modern East and West Eurasia (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 浅野ひとみ他
2. 発表標題 東京国立博物館所蔵カトリック・メダルの金属組成
3. 学会等名 日本文化財科学学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 浅野ひとみ
2. 発表標題 「さまよえるユダヤ人」伝承：中近世西欧キリスト教会の経済を支えたメディア
3. 学会等名 イエスズ会班第3回研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 石川博樹
2. 発表標題 『メネン皇后学校料理書』とエチオピア北部における副食の歴史的变化
3. 学会等名 日本ナイル・エチオピア学会第31回学術大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 石川博樹
2. 発表標題 エチオピアにおけるインジェラの調理技法の確立時期
3. 学会等名 日本アフリカ学会第60回学術大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 石川博樹
2. 発表標題 アフリカ食文化史研究の最前線：エチオピアの酸っぱいパンケーキの謎に迫る
3. 学会等名 第18回四大学連合文化講演会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 石川博樹
2. 発表標題 Birth of Injera in Ethiopia
3. 学会等名 International Workshop “Food as a Window to the Past: Africa, Asia and the Pacific,” Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 石川博樹
2. 発表標題 アフリカ食文化史研究が問いかけるもの
3. 学会等名 西東京三大学共同サステイナビリティ国際社会実装研究センター サステイナビリティ研究オープンセミナー 第2回「世界の食と農」東京農工大学
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 石川博樹
2. 発表標題 19世紀半ばのエチオピアにおける「インジェラ」
3. 学会等名 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題「アフリカ食文化研究：変貌しつつあるその実像に迫る」2023年度第3回研究会、京都大学稲盛財団記念館
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 岡田正彦
2. 発表標題 明治改暦と近代仏教
3. 学会等名 日本宗教学会第82回学術大会、東京外国語大学
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小俣ラポー日登美
2. 発表標題 文化翻訳の過去・現在・未来
3. 学会等名 京都大学白眉センター
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小俣ラポー日登美
2. 発表標題 科学の物語、物語の科学 科学の生きる時間軸をさかのぼる学際研究
3. 学会等名 白眉センター後援 シンポジウム
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小俣ラポー日登美
2. 発表標題 Stereotypes Revisited
3. 学会等名 京都大学白眉センター
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小俣ラポー日登美
2. 発表標題 Mining for Gold in the Textual Vein: A Text Mining Analysis of the Intertextuality between the Legenda Aurea and the Martyrologies of the Reformativ Era
3. 学会等名 Transcending the Tangibility and Intangibility: Religion and Media in Pre-Modern East and West Eurasia, Tokyo Metropolitan University (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小俣ラポー日登美
2. 発表標題 歴史のためのテキストマイニング：中世－宗教改革期の宗教テキストの相関性をコレスポネンス分析から検証する
3. 学会等名 京都大学人文科学研究所
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小俣ラポー日登美
2. 発表標題 事実のつくりかた：イメージと言説の再生産の紡ぐ歴史
3. 学会等名 サントリー文化財団フォーラム
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 小俣ラポー日登美
2. 発表標題 Distant Reading of Martyrologies in the Reformatory Era: Text Mining Analysis for Assessing Stereotypes
3. 学会等名 Europa ed Estremo Oriente: relazioni, incontri e conflitti nella prima eta moderna, Universita di Firenze (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 小俣ラポー日登美
2. 発表標題 近世ヨーロッパの殉教伝のテキスト・マイニングから見る日本：イメージと言説の再生産が紡ぐ歴史
3. 学会等名 日文研シンポジウム 日本宗教・思想文化の接合域と多面性を考える：「他者」とどのように向き合ったのか
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 折井善果
2. 発表標題 近世初期日本における告解（ゆるしの秘跡）とキリシタン版『さるばとるむんぢ』
3. 学会等名 イエズス会班第4回研究会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 折井善果
2. 発表標題 パリ国立図書館蔵『サントスの御作業』の書き入れについて：17世紀フランス東洋学との関係
3. 学会等名 キリスト教史学会第75回大会、東北学院大学
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 パトリック・シュウエマー
2. 発表標題 キリシタン聖人伝「サンタマリナの御作業」におけるローカリゼーションと口頭伝承：ポルトガル語原典に照らして
3. 学会等名 イエズス会班第2回研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 平岡隆二
2. 発表標題 禁教・潜伏・発見：キリシタンの3世紀（1614-c.1920）
3. 学会等名 人文研アカデミー-2023シンポジウム「もう一つのキリシタン信徒発見：1879年茨木・千提寺とフランス人宣教師」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 平岡隆二
2. 発表標題 A Jesuit Cosmology Textbook in Japanese Translation: the Discovery and Significance of Sufera no nukigaki スヘラの抜書 (Selection on the Sphere)
3. 学会等名 The 16th International Conference on the History of Science in East Asia (16th ICHSEA), Frankfurt am Main (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 平岡隆二
2. 発表標題 Exploring Cosmology with a Clockwork Astronomical Model: A Public Scientific Lecture in 18th Century Japan
3. 学会等名 EHES seminar "Sciences et savoirs de l'Asie orientale dans la mondialisation (XVIe-XXIe siècle) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 平岡隆二
2. 発表標題 Cosmology in Translation: A Case of Jesuit Textbook during Japan's "Christian Century"
3. 学会等名 International Workshop "Latin as a Cultural Interface between Europe and East Asia in Catholic Missions (16th-18th Centuries)" organised by Universite d'Orleans and IRFA (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 平岡隆二
2. 発表標題 キリシタン布教と科学伝来：新発見の宇宙論教科書『スヘラの抜書』を中心に」
3. 学会等名 洋学史学会若手部会例会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 アンドレス・メナチェ
2. 発表標題 「歴史」の変遷と現代アートについて
3. 学会等名 東北芸術工科大学
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 アンドレス・メナチェ
2. 発表標題 日本の初期宣教に見られる補陀落渡海と「悪魔の殉教者」との関係について
3. 学会等名 新キリシタン学研究会第3回例会、早稲田大学
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 アンドレス・メナチェ
2. 発表標題 From 'Barbarians' to 'Wicked': The Perception of Christian Religion in Early Modern Japan
3. 学会等名 Masaryk University, Department of Japanese Studies (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 アンドレス・メナチェ
2. 発表標題 Between the Boat and the Cross: A Comparative Study of the Western Account of the Fudaraku Sailing and the Japanese Depiction of Christian Martyrdom in Early Modern Japan
3. 学会等名 17th International Conference of the European Association of Japanese Studies, Ghent University (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Hitomi Asano
2. 発表標題 Sobre los restos del Galeon San Diego naufragado en 1600
3. 学会等名 Simposio Internacional (Universidad Iberoamericana) Japon y el mundo hispanico a traves de la ruta transpacifica: siglos XVI y XVII (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石川博樹
2. 発表標題 16-18世紀エチオピア北部におけるテフの重要性の変化について
3. 学会等名 日本ナイル・エチオピア学会第30回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石川博樹
2. 発表標題 エチオピア関連ポルトガル語史料における作物名称MilhoとGraoに関する考察
3. 学会等名 日本アフリカ学会第58回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石川博樹
2. 発表標題 武田和久氏の報告に対するコメント
3. 学会等名 メトロポリタン史学会第17回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石川博樹
2. 発表標題 イタリアにおけるエチオピア人種・民族論の展開
3. 学会等名 日本オリエント学会第63回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡田正彦
2. 発表標題 仏暦の忌日と『日本仏教』
3. 学会等名 日本宗教学会・第80回学術大会・パネル「暦の思想史」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小俣ラポー日登美
2. 発表標題 「殉教をみるということ 近世ヨーロッパにおける日本からの聖遺物」
3. 学会等名 メトロポリタン史学会第17回大会シンポジウム「前近代世界における宗教運動と文化交流の諸相」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yoshimi Orii
2. 発表標題 Pietro Alagona's "Compendium Manualis Navarri" published by the Jesuit Mission Press in Early Modern Japan (1597)
3. 学会等名 Max Planck Institute for Legal History and Legal Theory, "Legal Books and Beyond in the Iberian Worlds: Normative Knowledge Production in the Age of Printing Press" (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 パトリック・シュウェマー
2. 発表標題 キリシタン聖人伝の日欧の原典
3. 学会等名 キリシタン文化研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Patrick Schwemmer
2. 発表標題 The Medieval Japanese Life of St. Alexius of Edessa
3. 学会等名 16th International Conference of the European Association for Japanese Studies, Whova (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 武田和久
2. 発表標題 キリスト教的地獄観の流用（アプロプリエーション）とアメリカ先住民 - 17-18世紀スペイン領南米ラプラタ地域のイエズス会布教区を中心に
3. 学会等名 メトロポリタン史学会第17回大会シンポジウム「前近代世界における宗教運動と文化交流の諸相」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kazuhisa Takeda
2. 発表標題 Las relaciones de parentesco y cacicazgo guarani en las misiones jesuitas de Paraguay: el producto hibrido de la colonizacion y evangelizacion espanola
3. 学会等名 XIX Congreso de AHILA (Asociacion de Historiadores Latinoamericanistas Europeos) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 平岡隆二
2. 発表標題 開陽丸引き上げ文書と梅文鼎『曆算全書』
3. 学会等名 洋学史学会オンラインシンポジウム「開陽丸引き揚げ文書について 幕府天文方と開陽丸」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ryuji Hiraoka
2. 発表標題 Buddhist Reaction to the Western Theory of Round Earth in 17th and 18th Century Japan
3. 学会等名 The 6th History of Mathematical Sciences: Portugal and East Asia VI: Measuring Time, Heaven and Earth, Seoul (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Andres Menache
2. 発表標題 Los misioneros y la ley de los demonios: una lectura jesuita del edicto de expulsion de los padres
3. 学会等名 Japon y el mundo hispanico a traves de la ruta transpacifica: siglos XVI y XVI (Seminario Internacional), Universidad Iberoamericana, Mexico (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 武田和久
2. 発表標題 イエズス会班キックオフミーティング
3. 学会等名 ReMo研A03班2020年度第1回研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 武田和久
2. 発表標題 罹患先住民女性の臨死体験と対称性 スペイン領南米ラプラタ地域のイエズス会布教区を事例として
3. 学会等名 早稲田大学ヨーロッパ中世・ルネサンス研究所
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 パトリック・シュウェマー
2. 発表標題 反キリシタン物語成立考 否定という受容
3. 学会等名 大航海時代のキリシタン文学 - グローバル社会の形成に果たした日本の役割 -、愛知県立大学日本文化学部
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計15件

1. 著者名 Toshio Ohnuki, Gert Melville, Yuichi Akae, Kazuhisa Takeda (Eds.)	4. 発行年 2024年
2. 出版社 LIT Verlag	5. 総ページ数 280
3. 書名 Pastoral Care and Monasticism in Latin Christianity and Japanese Buddhism (ca. 800-1650)	

1. 著者名 大貫俊夫・赤江雄一・武田和久・苅米一志編	4. 発行年 2024年
2. 出版社 八坂書房	5. 総ページ数 416
3. 書名 修道制と中世書物：メディアの比較宗教史に向けて	

1. 著者名 浅野ひとみ他	4. 発行年 2023年
2. 出版社 論創社	5. 総ページ数 288
3. 書名 カンティーガス・デ・サンタ・マリアへの誘い：聖母マリア頌歌集	

1. 著者名 小俣ラポー日登美（分担執筆）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Brill	5. 総ページ数 342
3. 書名 Oba Haruka et al. (eds.), Japan on the Jesuit Stage: Transmissions, Receptions, and Regional Contexts, Leiden: Brill, 2020 (担当: Japanese Martyrs in French Jesuit Drama (Japanese Martyrs in French Jesuit Drama (Late Seventeenth-Early Eighteenth Century): Between Violence and Bienseance, pp. 87-131	

1. 著者名 浅野ひとみ（共編著）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 長崎純心大学	5. 総ページ数 -
3. 書名 覚醒する禁教期キリシタン	

1. 著者名 石川博樹（共編著）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房（担当：「無文字社会の歴史 サハラ以南アフリカの歴史研究は可能か」）	5. 総ページ数 378
3. 書名 論点・東洋史学	

1. 著者名 Yoshimi Orie (分担執筆)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Amsterdam University Press	5. 総ページ数 322
3. 書名 H. Madar (ed.), Prints as Agents of Global Exchange, 1500-1800, Amsterdam, 2021 (担当: “The Catholic Reformation and Japanese Hidden Christians: Books as Historical Ties”, pp. 159-180)	

1. 著者名 Laura Dierksmeier, Fabian Fechner and Kazuhisa Takeda (eds.)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Tubingen University Press	5. 総ページ数 310
3. 書名 Indigenous knowledge as a resource : transmission, reception, and interaction of knowledge between the Americas and Europe, 1492-1800	

1. 著者名 Kazuhisa Takeda	4. 発行年 2021年
2. 出版社 De Gruyter	5. 総ページ数 195
3. 書名 Fernanda Alfieri and Takashi Jinno (eds.), Christianity and Violence in the Middle Ages and Early Modern Period: Perspectives from Europe and Japan, Berlin and Boston: De Gruyter, 2021 (担当: “The Global Expansion of Christian Violence in the Old and the New World: From Early Church Fathers to the Jesuits”, pp. 143-158)	

1. 著者名 武田和久 (分担執筆)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 知泉書館	5. 総ページ数 346
3. 書名 甚野尚志編『疫病・終末・再生 中近世キリスト教世界に学ぶ』、知泉書館、2021年(担当: 「罹患先住民女性の臨死体験と対称性 スペイン領南米ラプラタ地域のイエズス会布教区を事例として」315-335頁)	

1. 著者名 Ryuji Hiraoka (分担執筆)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Brill	5. 総ページ数 297
3. 書名 Bill M. Mak and Eric Huntington (eds.), <i>Overlapping Cosmologies in Asia: Transcultural and Interdisciplinary Approaches</i> , Brill, 2022 (担当: Chapter 4 "Deciphering Aristotle with Chinese Medical Cosmology: Nanban Unkiron and the Reception of Jesuit Cosmology in Early Modern Japan," pp. 98-115).	

1. 著者名 Yoshimi Orii y Maria Jesus Zamora Calvo (eds.)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Abada Editores	5. 総ページ数 294
3. 書名 Cruces y ancoras: la influencia de Japon y Espana en un Siglo de Oro global	

1. 著者名 パトリック・シュウェマー (英訳ならびに監訳)、エリザ・タシロ、白井純編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 八木書店	5. 総ページ数 848
3. 書名 日葡辞書 : リオ・デ・ジャネイロ国立図書館蔵	

1. 著者名 パトリック・シュウェマー (英訳ならびに監訳)、五野井隆史監修	4. 発行年 2020年
2. 出版社 かまくら春秋社	5. 総ページ数 816
3. 書名 潜伏キリシタン図譜	

1. 著者名 平岡 隆二 (分担執筆)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 718
3. 書名 日本思想史事典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>ReMo研：中近世における宗教運動とメディア・世界認識・社会統合 https://religious-movements.com/</p> <p>ReMo研ニュースレター https://religious-movements.com/newsletter/</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	平岡 隆二 (Hiraoka Ryuji) (10637622)	京都大学・人文科学研究所・准教授 (14301)	
研究分担者	浅野 ひとみ (Asao Hitomi) (20331035)	長崎純心大学・人文学部・教授 (37302)	
研究分担者	シュウェマー パトリック (Schwemmer Patrick) (30802946)	武蔵大学・人文学部・准教授 (32677)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	折井 善果 (Orii Yoshimi) (80453869)	慶應義塾大学・法学部（日吉）・教授 (32612)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	岡田 正彦 (Okada Masahiko) (00309519)	天理大学・人間学部・教授 (34602)	
研究協力者	小俣ラポー 日登美 (Omata Rappo Hitomi) (90835810)	京都大学白眉センター・人文科学研究所・白眉特定准教授 (14301)	
研究協力者	石川 博樹 (Ishikawa Hiroki) (40552378)	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授 (12603)	
研究協力者	メナチェ アンドレス (Menache Andres)	京都大学・大学院・博士後期課程 (14301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
英国	リーズ大学			
ベルギー	ヘント大学			